

令和7年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 理 科 ） 学年（ 1 学年 ）

目指す授業

- ・導入で身近な例を出し、生徒が興味を持てる授業。
- ・主体的に考え、学んだことが他の単元と結び付いた授業。
- ・単元に関する疑問を持ち、「わかった」、「楽しい」と思えるような授業。



授業・アンケート等の課題分析

- ・全質問に対し、肯定的な意見が8割を下回らなかったが、約2割の生徒が理科の授業に対し積極性、学ぶ楽しさ、分かりやすさが当てはまらない、どちらかという当てはまらないに入れていたため、個人の理解度に合った授業を展開できていなかった。
- ・授業のはじめに目標が示されているという質問は9割の生徒が当てはまるに入れていたため、年度当初よりも授業の目標を示すことはできていた。



成果と課題

成果

- ・授業規律を提示し、授業を円滑に進めることができた。

課題

- ・ICTを活用し、生徒に単元の内容について、わかりやすく伝える。
- ・協働的な学びの時間を作り、仲間と楽しく学びあう場面をつくる。
- ・なぜ学んでいるのか、何につながるのかを日常と絡めていく。
- ・実験を積極的に取り入れ、できない範囲は動画で視聴させる。
- ・学んだ知識を使い、発展的な学習を導入する。
- ・単元ごとに復習の時間を取り入れる。

令和7年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 理 科 ） 学年（ 2 学年 ）

目指す授業

- ・生徒がわかる授業を目指し、基礎学力を定着させる
- ・授業の展開の工夫⇒協働学習の充実、ICTの活用
- ・生徒が学ぶ楽しさを感じられ、学びを日常生活と関連している出来事と結び付けられる



授業・アンケート等の課題分析

- ・アンケート結果より、8，9の項目において、当てはまる、どちらかといえばあてはまると答えていた。
- ・多くの生徒が、前向きに授業に取り組んでいるので、この調子で成績を伸ばしていき、基礎学力を定着させていきたい。



成果と課題

成果

- ・実験・観察では、班の中で役割分担を決め、各自が責任をもって実験に取り組むことができた。
- ・積極的にICTを活用して実験・観察結果をすばやく共有することができた。
- ・結果や考察など発表する機会では、自分の考えを言語化することを意識して取り組んだ。実験のレポート指導と合わせて今後も継続していく。

課題

- ・今後も個別に声かけを続けるとともに、基礎学力を定着させ、「わかった」「できた」と実感できるよう工夫していく。
- ・領域診断テストの結果からも既習事項の定着をはかっていくことが課題である。
- ・復習の時間と確保するとともに家庭学習にも取り組むよう促していく。

令和7年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 理 科 ） 学年（ 3 学年 ）

目指す授業

- ・高校とのつながりを持った、専門性の高い、わかりやすい授業を目指す
- ・授業の展開の工夫⇒協働学習の充実、ICTの活用、専門家との連携、探究学習の展開
- ・地域資源を活用し、身近な理科に関するテーマを扱う授業を展開する



授業・アンケート等の課題分析

- ・3, 4, 5, 7の項目で95%以上がすべての項目で当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答していた。
- ・一部数名苦手意識を持っている生徒がいるので声掛けを積極的にできたらよかった。
- ・授業では出前授業や探究学習、ディベート、フィールドワークなどさまざまな授業形態にチャレンジした。このような授業実践の満足度は非常に高く、生徒たちの印象に残ったようだ。



成果と課題

成果

- ・ICTを活用し、プレゼンテーションを何度か経験させ、また、そのときの自己評価や他者評価など、ルーブリックに基づいて評価させた。
- ・出前授業など、専門家の先生方を招きとりくんだ また、地域資源を活用したフィールドワークや出前授業、千駄木のフィールドワークなどにも取り組んだ。
- ・プラスチックの未来について、生徒同士でディベートに取り組み、論理的に活発に議論させた
- ・東北地方太平洋沖地震3.11の防災教育や災害に向き合う教育を実践した。

課題

- ・探究学習は基礎的な学力が必要なので、生徒の学力差があるときの工夫は必要であり、さらに良いものにするために、ワークシートを作るのに苦戦した⇒様々な学力層の生徒に対応できるワークシートを研究していきたい。
- ・公立中学でもできる探究学習の問いの立て方や、資料作りをしていきたい。
- ・協働学習に積極的に取り組み、生徒同士で学びあいの場を多く作る指導法を導入したい。